令和５年度　奈良県立青翔中学校高等学校　学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和５年度（中期計画２年目）
本校の使命 （スクール・ミッション）	中高一貫６年間を通した理数教育の推進により、地域に貢献するとともに、科学技術創造立国たる日本の未来を牽引するサイエンスイノベーターを創出します。
年度重点目標	科学技術人材育成にむけた探究的な学びと授業改善の推進

１　スクール・ポリシーの内容

教育方針 （スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	自然科学の分野で社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下のような生徒を求めます。 １　科学的な現象を探究しようとする意欲をもち、物事を論理的に粘り強く考えるための土台となる数学が好きな生徒 ２　将来、科学研究活動を通して社会に役立ちたいと願い、実験・観察や理科に興味・関心をもち、自ら進んで課題の発見や解決に努めようとする生徒 ３　基本的なコミュニケーション力を身に付け、仲間と協働できる生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	中高一貫６年間を通した理数教育を、以下のように推進します。 １　全校体制での探究的な学びの充実 ２　ＳＴＥＡＭ教育の視点に立った教科等横断的取組 ３　ＳＤＧｓを活用した地域課題を解決するための自治体・企業等との連携 ４　中高一貫理数教育の特色を生かした体系的カリキュラムの編成 ５　高次の研究を実現させるための国内外の大学等との継続的な連携 ６　異学年集団の学びによる科学的リテラシーの習得
	育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	サイエンスイノベーターとして必要となる、以下の資質・能力の育成を目指します。 １　課題発見・解決・設定に必要な創造的思考力 ２　科学的根拠に基づいた総合的判断力 ３　多様な考え方を尊重しチームで協働するコミュニケーション能力

２　奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和5年度末の目標値等（C）	令和5年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策
１． こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	基礎的な体力の向上	各自の体力の向上 スポーツテストのA・B判定が30%以上	各自の体力の向上 スポーツテストのA・B判定が27%以上				
	望ましい生活習慣の確立	朝食摂取率が90%以上 睡眠時間６時間以上が80%以上	朝食摂取率が85%以上 睡眠時間６時間以上が75%以上				
	自身の健康管理	歯科検診などの治療勧告後の受診率が80%以上	歯科検診などの治療勧告後の受診率が70%以上				
２． 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケートの「授業に学ぶ楽しさを感じますか」の肯定的な回答が70%以上 生徒の意識調査の「自ら取り組む姿勢（自主性、やる気、挑戦心）」が身に付いたという回答が80%以上	授業アンケートの「授業に学ぶ楽しさを感じますか」の肯定的な回答が70%以上 生徒の意識調査の「自ら取り組む姿勢（自主性、やる気、挑戦心）」が身に付いたという回答が75%以上				
	学習意欲の向上	ジェネリックスキルテストの学習意欲に関する領域の得点を伸ばした生徒が50%以上	ジェネリックスキルテストの学習意欲に関する領域の得点を伸ばした生徒が40%以上				
	探究的な学びの推進による、主体性、独創性の養成	生徒の自主性、独創性が身に付いたという回答が、ともに70%以上	生徒の自主性、独創性が身に付いたという回答が、ともに65%以上				
	ICTを活用した授業改善	教員の情報活用能力80%以上	教員の情報活用能力75%以上				
	学校における働き方改革	学校行事を精選・マニュアル化し、教員の業務を軽減する	学校行事に関するマニュアルを２つ以上の行事で作成				
３． 働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップの充実と産業界との連携	中学校職場体験及び高校インターンシップ(教育研究所主催等)への参加で「良かった」の回答が80%以上、職場見学や企業の研究開発等に関わる講演会の実施で「良かった」の回答が80%以上	中学校職場体験及び高校インターンシップ(教育研究所主催等)への参加で「良かった」の回答が75%以上、職場見学や企業の研究開発等に関わる講演会の実施で「良かった」という回答が75%以上				
	キャリア教育の推進	社会への参画を見据えた大学や企業での研修・共同研究の実施 筆記試験だけにたよらない総合型・学校推薦型選抜に出願する生徒の割合を20%以上	社会への参画を見据えた大学や企業での研修・共同研究の実施 筆記試験だけにたよらない総合型・学校推薦型選抜に出願する生徒の割合を20%以上				
	ジェネリックスキルの伸長	STEAMの観点を加えた本校独自のジェネリックスキルテストを開発し、生徒の非認知能力の向上を図る	ジェネリックスキルテストにおいて総得点を伸ばした生徒が40%以上				
４． 地域と協働して活躍する人を育てる	地域の課題を発見し、解決する力の養成	生徒の課題発見力、課題解決力が身に付いたという回答がともに80%以上	生徒の課題発見力、課題解決力が身に付いたという回答がともに75%以上				
	海外交流校等との協力による国際性の養成	生徒の国際性が身に付いたという回答が60%以上	生徒の国際性が身に付いたという回答が50%以上				
５． 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	発達段階に応じた人権教育の推進	中高６年間を通じ、発達段階に応じた体系的な指導計画やプログラムに基づくLHRや行事を実施	中高６年間を通じ、発達段階に応じた体系的な指導計画やプログラムに基づくLHRや行事を各学年２回実施				
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	「いじめアンケート」や「こころと生活に関するアンケート」の結果に基づいて個別面談が必要な生徒との面談（年間２回以上）の実施及び職員間の情報共有の推進	「いじめアンケート」や「こころと生活に関するアンケート」の結果に基づいて個別面談が必要な生徒との面談（年間２回以上）の実施及び職員間の情報共有の推進				
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用	対象となる生徒の状況の全職員による共有と、対象生徒の保護者との個別面談（年間２回以上）の実施	対象となる生徒の状況の全職員による共有と、対象生徒の保護者との個別面談（年間２回以上）の実施				

３　評価結果の分析、今後の改善方策等